

鳥取県内 260 校に交通安全旗を送りました。(幼稚園・小学校・中学校)  
 “交通遺児・福祉カンパ活動の一環”

6,000本!



鳥取市岩倉小学校にて 高田校長 安田理事長

不幸にして交通事故により親を亡くした子供の支援の為、1979年(昭和54年)に始まった交通遺児支援カンパ活動が今年で30年を迎えることとなりました。

この間、延982人の生徒に激励の意味を込めて支援金を送りました。

募金活動は、毎年12月に街頭カンパ活動を東部支部・中部支部・西部支部で行っています。又、職場では職域カンパ、そして組合イベント等での募金活動などで行われています。

今年度は新たなとりくみとして、今まで積み立てた資金を活用し児童・生徒の交通事故防止の啓発活動の一助として、県内小・中学校・特別支援学校・幼稚園へ横断旗(黄旗)を260校に贈呈しました。

贈呈式は県内3小学校で実施しました。(4月14日 月曜日)

東部地区	鳥取市	岩倉小学校	安田理事長	小泉専務	小高常務
中部地区	湯梨浜町	羽合小学校	中林中部支部支部長	川上事務局長	
西部支部	日吉津村	日吉津小学校	角西部支部支部長	赤井事務局長	



湯梨浜町羽合小学校 中林支部長



日吉津村日吉津小学校 角支部長

# 個人情報保護法の壁



高田校長(左)や児童の登下校を見守る人たちに横断旗を掲げた安田理事長(右)、鳥取市立岩倉小で

## 交通遺児支援に危機

県労働者福祉協議会(鳥取市)が交通事故で親を亡くした子どもたちを支援する活動が、個人情報保護法の壁に阻まれている。遺児の情報の提供を受けるのが難しくなり、対象者が一けたにとまる年も。街頭募金やカンパを元に、これまで学用品や支援金を延べ約1000人の遺児に贈ってきたが、30年目を迎えて継続するかどうかを頭を悩ませている。

協議会は、勤労福祉の推進を目的に1973年、県内の労働組合などで発足。遺児への支援は財団法人となった79年度から始めた。安田邦夫理事長は「当時は交通事故の補償が十分でなく、遺された子どもたちの学習を助たい一念だった」といふ。

当初は、毎年末の街頭募金や職域カンパで学用品を用意し、把握した遺児全員

## 贈り先把握への協力減る

### 県労働者福祉協 新たな形模索

らっていたが、同年4月の個人情報保護法の全面施行で、協力を得るのが難しくなった。

06年度からは、対象学年全体の約2万5000人分の書類を学校に配ってもらい、各家庭が申し込む方式に変え、同年度は約1人、07年度には18人に支援金を贈った。だが「力がかりすぎる」との声が出て、今年度の実施は未定だ。

県教委は「事業は紹介できるが、家族の死という私的な情報を外部に出すのは難しい」としている。

「子ども自身を事故から守る」とも大切。安田理事長らは今月、初めて県内の全公立小中学校や幼稚園など67校・園に横断用の旗を20本ずつ贈った。購入費は寄付金と支援実績との差額の積立金で賄った。

県労働者福祉協議会の安田理事長は「今後、市民の善意をどう生かしていくか、さまざまな形を模索したい」と話している。

**鳥取**  
 本社 0857(21)2880  
 中部本社 0856(26)8311  
 東伯支局 0856(53)0671  
 但馬支社 0796(82)4541  
 Eメールアドレス houou@hml.co.jp

## 交通安全に活用して

### 学校へ横断旗寄贈

同協議会は、今年から交通安全活動の一環として、県内の全公立中学校・幼稚園などに横断旗を寄贈する。横断旗は、子どもたちの登下校を見守る人たちのために活用して、交通安全を促す。横断旗は、子どもたちの登下校を見守る人たちのために活用して、交通安全を促す。横断旗は、子どもたちの登下校を見守る人たちのために活用して、交通安全を促す。



安田理事長(右)から渡された横断旗を広げる高田校長(左)ら